

日本甲状腺学会 次世代研究者の会（NexT-JTA）

会報 Vol. 2

2025年1月23日



編集

NexT-JTA 世話人

(代表) 名古屋大学医学部附属病院 糖尿病・内分泌内科 岩間信太郎
群馬大学大学院医学系研究科 応用生理学分野 天野出月
国立国際医療研究センター研究所 疾患ゲノム研究部 中尾佳奈子
京都大学大学院医学研究科 糖尿病・内分泌・栄養内科学 山内一郎

2024 年 活動報告

日本甲状腺学会 次世代研究者の会 (Next-generation committee of Thyroidologist in the Japan Thyroid Association: NexT-JTA) は、「日本の甲状腺研究を発展させるため、有機的な交流及び活動の場を提供することにより、若手研究者を育成・支援する」ことを目的に、2023 年 2 月の理事会承認を経て活動を開始しました。本会の活動について、この場をお借りしてご報告申し上げます。

本会は、設立当初 20 名で活動を開始し、2023 年と 2024 年の学術集会後に新規入会者を迎え、現在の会員数は 39 名となっております。

第 67 回日本甲状腺学会学術集会では、会長の荒田尚子先生のご厚意により、第 2 回 NexT-JTA シンポジウムを開催させていただきました。本シンポジウムは、本会会員である中尾佳奈子先生(国立国際医療研究センター)、伊澤正一郎先生(鳥取大学)、森下啓明先生(愛知医科大学)が中心となって企画し、家里明日美先生(本会会員、公益財団法人がん研究会)、天野出月先生(本会会員、群馬大学)、大場健司先生(浜松医科大学)、西原永潤先生(隈病院)よりご講演いただきました。講演では、ご自身の研究成果に加え、研究を進める過程での苦労話や経験をシェアしていただき、若手・中堅研究者を含めた参加者にとって非常に有意義な内容となりました。

また、学術集会 2 日目には第 2 回全体会合を開催しました。新規入会者の自己紹介を通じて、それぞれのキャリアや研究内容を共有するとともに、本会の活動を通じて会員が活躍できる機会を企画することについて活発な議論が行われました。

NexT-JTA は会員を広く募集しておりますので、入会を希望される方は学会事務局へ御連絡ください。会員同士の輪を広げ、切磋琢磨し、日本の甲状腺研究を盛り上げていきたいと思っております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

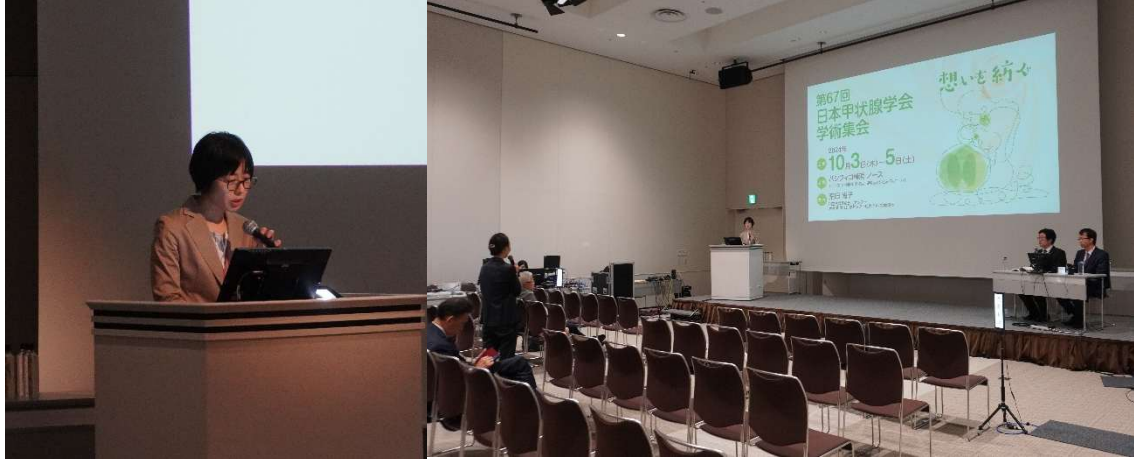
(日本甲状腺学会ニュースレター 2025年1月 第 69 号掲載分を一部改変)



第 2 回全体会合
集合写真

第2回 NexT-JTA シンポジウム

講演1 家里明日美先生 「がん研究を通じて学んだこと」



講演2 天野出月先生 「甲状腺ホルモンの中枢神経系における生理学的作用」



講演3 大場健司先生 「甲状腺研究のキャリアデザイン:independent なポジションを目指して」



講演4 西原永潤先生「寄り道も亦楽しからずや」



シンポジウムの様子



会員リスト・自己紹介

<世話人>

岩間 信太郎（名古屋大学医学部附属病院 糖尿病・内分泌内科）（代表）
天野 出月（群馬大学大学院医学系研究科 応用生理学分野）
中尾 佳奈子（国立国際医療研究センター研究所 疾患ゲノム研究部）
山内 一郎（京都大学大学院医学研究科 糖尿病・内分泌・栄養内科学）

<会員>

伊澤 正一郎（鳥取大学医学部 循環器・内分泌代謝内科学）
木村 哲也（大阪大学微生物病研究所 代謝免疫学グループ）
呉 壮香（Dana-Farber Cancer Institute Medical Oncology/日本医科大学 統御機構診断病理学）
三小田 亜希子（国立成育医療研究センター 女性の健康総合センター プレコンセプションケアセンター/女性総合診療センター 女性内科）
鈴木 菜美（伊藤病院 内科）
田村 温美（東京医科大学 呼吸器・甲状腺外科学分野/米国国立衛生研究所）
中野 賢英（昭和大学横浜市北部病院 甲状腺センター）
濱田 航一郎（長崎大学病院 総合診療科）
平塚 いづみ（藤田医科大学医学部 内分泌・代謝・糖尿病内科学）
藤澤 諭（岡山大学病院 腎臓・糖尿病・内分泌内科）
藤田 直也（防衛医科大学校 総合臨床部）
松瀬 美智子（長崎大学 原爆後障害医療研究所 放射線災害医療学研究分野）
松本 和久（鳥取大学医学部 循環器・内分泌代謝内科学分野）
森下 啓明（愛知医科大学医学部内科学講座 糖尿病内科）
山口 直哉（名古屋市立大学大学院医学研究科 新生児・小児医学分野）
山田 宏哉（藤田医科大学医学部 衛生学教室）
家里 明日美（公益財団法人がん研究会 NEXT-Ganken プログラム）
岩崎 源（東京医科大学病院 糖尿病・代謝・内分泌内科）
桐谷 光夫（帝京大学医療技術学部 臨床検査学科）
蛭間 重典（東邦大学 内科学講座 糖尿病代謝内分泌学分野）
山崎 春彦（横浜市立大学附属市民総合医療センター 乳腺・甲状腺外科）
新井 信晃（杏林大学医学部 呼吸器・甲状腺外科）
上田 真由（長崎大学 原爆後障害医療研究所 腫瘍・診断病理学/長崎大学病院 内分泌・代謝内科）

酒匂 あやか（長崎みなとメディカルセンター 糖尿病・内分泌内科）
長岡 竜太（日本医科大学 内分泌外科）
濱田 勝彦（田尻クリニック）
谷古宇 史芳（東京医科大学 八王子医療センター 糖尿病・内分泌・代謝内科）
杉澤 千穂（昭和大学藤が丘病院 内科(糖尿病・代謝・内分泌)）
星 雅恵（金地病院 外科）
渡邊 琢也（JA 長野厚生連 佐久総合病院 佐久医療センター 糖尿病内分泌内科）
竹島 健（和歌山県立医科大学 内科学第一講座）
中路 啓太（長崎大学 原爆後障害医療研究所 放射線災害医療学研究分野）
江藤 真実（隈病院 内科/長崎大学 原研医療）
川本 晃史（順天堂大学医学部 放射線治療学講座/金地病院）
志村 和浩（慶應義塾大学医学部 小児科学教室）

（入会日順、五十音順、敬称略）

	世話人代表 岩間 信太郎(いわま しんたろう) 名古屋大学医学部附属病院 糖尿病・内分泌内科 自己免疫が関連する甲状腺疾患および下垂体疾患について、自己抗原の解明やバイオマーカーの開発に関する研究を行っています。
Researchmap https://researchmap.jp/IWAMA-728	

	世話人 天野 出月(あまの いづき) 群馬大学大学院医学系研究科 応用生理学分野 甲状腺ホルモンの脳発達、神経機能への影響に関する基礎研究を行っています。
Researchmap https://researchmap.jp/izukiamano	

	世話人 中尾 佳奈子 (なかお かなこ) 国立国際医療研究センター研究所 疾患ゲノム研究部 内分泌内科医ですが、移行期医療に関心を持ったことをきっかけに、小児内分泌学を臨床・研究の両面から学んできました。 先天性甲状腺疾患の分子病態解明や、遺伝型-表現型解析に興味を持って取り組んでいます。
Researchmap https://researchmap.jp/kanako tn	

	世話人 山内 一郎 (やまうち いちろう) 京都大学大学院医学研究科 糖尿病・内分泌・栄養内科学 GH と脱ヨード酵素の関連についての研究を行い、現在も所属する教室で 2019 年に博士(医学)を取得しました。甲状腺生理学に関するトランスレーショナル研究、興味ある病態についての臨床研究を主にしています。
Researchmap https://researchmap.jp/ichiroy 教室 HP http://metab-kyoto-u.jp/index.html	

	伊澤 正一郎（いざわ しょういちろう） 鳥取大学医学部 循環器・内分泌代謝内科学 甲状腺疾患をはじめとする内分泌代謝内科の専門診療や教育を行いながら、自己抗体に着目した甲状腺癌の新規診断法開発に取り組んでいます。また教室では内分泌グループの責任者として甲状腺眼症や睡眠障害など甲状腺疾患の合併症に注目した臨床研究、治験に取り組んでいます。
Researchmap https://researchmap.jp/sho_izawa	

	木村 哲也（きむら てつや） 大阪大学微生物病研究所 代謝免疫学グループ（研究室主宰者） 専門医取得後、基礎研究を続けています。これまでマクロファージとリソソーム、mTOR シグナル経路に関する研究を行ってきました。これらの研究で培った知見・技術を、内分泌代謝領域の研究で今後活かしたいと考えています。共同研究の御依頼や、研究に関する御質問がありましたら、お気軽にお問い合わせ下さい。
Researchmap https://researchmap.jp/kimura-tetsuya 教室 HP http://www.biken.osaka-u.ac.jp/laboratories/detail/63 e-mail: tetsuyakimura@biken.osaka-u.ac.jp	

	呉 壮香（くれ しょうこ） Dana-Farber Cancer Institute Medical Oncology /日本医科大学 統御機構診断病理学 診断病理医として臨床診療に従事する傍ら、甲状腺腫瘍の診断や治療に関わるバイオマーカーについて分子病理学的な側面から研究を行ってきました。現在はアメリカの Dana-Farber Cancer Institute にて、癌免疫の研究に携わっています。この会を通して、分野の垣根を超えた交流をさせていただきたいと考えています。
Researchmap https://researchmap.jp/skure	

 準備中	三小田 亜希子(さんこだ あきこ) 国立成育医療研究センター 女性の健康総合センター プレコンセプションケアセンター/女性総合診療センター 女性内科 胎内環境と母児の周産期・長期予後の関係を、臨床疫学研究、データ統合型研究、リアルワールドデータ研究などの手法を用いて検討しています。女性内科、成育医療の視点から、次世代を担うこどもたちとその家族の健康づくりに貢献したいと考えています。
Researchmap https://researchmap.jp/asankoda/ 教室 HP https://www.ncchd.go.jp/hospital/about/section/jyosei/	

	鈴木 菜美 (すずき なみ) 伊藤病院 内科 日常臨床における疑問をもとに、主に自己免疫性甲状腺疾患に関する臨床研究を行っています。甲状腺疾患専門病院という特性を生かし、臨床の側面からアプローチした研究に興味があります。

 準備中	田村 温美 (たむら あつみ) 東京医科大学 呼吸器・甲状腺外科学分野/米国国立衛生研究所 (National Institutes of Health, National Cancer Institute) バセドウ病などの良性疾患から、高度進行甲状腺癌や未分化癌に至る幅広い甲状腺疾患に対して、手術を含む外科的治療を中心に診療に取り組んでいます。現在は米国国立衛生研究所にて、甲状腺癌の発癌メカニズムに関する基礎研究に従事しています。

	中野 賢英（なかの まさひで） 昭和大学横浜市北部病院 甲状腺センター 悪性高熱症の責任遺伝子モデル作成についての研究を行い、2014年に博士(医学)を取得しました。現在は、甲状腺外科医として活動している中で、甲状腺結節性病変に対する低侵襲治療としてのラジオ波焼灼療法の可能性について、国内での臨床研究を進めています。
教室 HP http://thyroidcenter.jp/	

準備中	濱田 航一郎（はまだ こういちろう） 長崎大学病院 総合診療科 遺伝子改変甲状腺癌マウスモデルを用いて、ミトコンドリア品質管理機構の異常と甲状腺の腫瘍化との関係に関する研究を行い、2023年に博士(医学)を取得しました。引き続き、甲状腺癌マウスモデルを用いた研究を行っています。
Researchmap https://researchmap.jp/k-hamada	

準備中	平塚 いづみ（ひらつか いずみ） 藤田医科大学医学部 内分泌・代謝・糖尿病内科学 Coming soon

	藤澤 諭（ふじさわ さとし） 岡山大学病院 腎臓・糖尿病・内分泌内科 岡山大学大学院で 2019 年に博士(医学)を取得し、京都大学の公衆衛生大学院で臨床研究について学びました(臨床研究者養成コース: MCR 18 期生)。現在は患者報告アウトカム(Patient-Reported Outcome)に着目した研究を行っております。 Researchmap https://researchmap.jp/fuji_sa
---	---

	藤田 直也（ふじた なおや） 防衛医科大学校 総合臨床部 破壊性甲状腺炎をバセドウ病から鑑別する新規バイオマーカーとしての血中 DIT(ジヨードチロシン)の有用性について多機関共同研究を行っています。詳細は公開文書を御覧下さい。 公開文書 https://www.ndmc.ac.jp/wp-content/uploads/2022/07/4494.pdf
--	--

	松瀬 美智子（まつせ みちこ） 長崎大学 原爆後障害医療研究所 放射線災害医療学研究分野 甲状腺癌の発癌・進展メカニズム、甲状腺未分化癌に対する新規分子標的治療、甲状腺癌幹細胞に関する基礎的研究を行ってきました。今後も甲状腺癌の患者さんのための、より正確な診断、より効果的な治療に貢献できるような研究を行っていきたいと考えています。 Researchmap https://researchmap.jp/7000002016 教室 HP https://www.genken.nagasaki-u.ac.jp/drms/
---	---

	松本 和久（まつもと かずひさ） 鳥取大学医学部 循環器・内分泌代謝内科学分野 バセドウ病と睡眠障害の関連性について臨床研究を行い、2022 年に博士(医学)を取得しました。甲状腺疾患を中心に内分泌代謝疾患に関する臨床研究を取組んでおります。
Researchmap https://researchmap.jp/kazu-matsumoto	
	森下 啓明（もりした よしあき） 愛知医科大学医学部内科学講座 糖尿病内科 内分泌細胞における小胞体ストレスを研究テーマにしており、2011年に名古屋大学で学位を取得しました。2012 年より 4 年間ミシガン大学 Peter Arvan 研究室に留学し、以来甲状腺濾胞細胞における小胞体ストレスと細胞生存について基礎研究を続けております。
Researchmap https://researchmap.jp/y morishita 教室 HP https://www.aichi-med-u.ac.jp/su06/su0607/su060703/06.html	
	山口 直哉（やまぐち なおや） 名古屋市立大学大学院医学研究科 新生児・小児医学分野 先天性甲状腺機能低下症(CH)の原因となるヨードトランスポーター遺伝子の研究を主にモデルマウスを用いて行っております。ヨードトランスポーターに関する研究を通して、CH の病態や甲状腺でのヨード動態の解明を目指しています。

準備中	山田 宏哉（やまだ ひろや） 藤田保健衛生大学医学部 衛生学教室 Coming soon

	家里 明日美（いえさと あすみ） 公益財団法人がん研究会 NEXT-Ganken プログラム がん細胞多様性解明プロジェクト 乳腺内分泌外科医として約 10 年臨床に従事した後、甲状腺癌の未分化転化、微小環境が分子標的治療(レンバチニブ)効果に及ぼす影響について研究してきました。現在は癌のリンパ管侵襲における、がんと微小環境の相互作用の研究に取り組んでいます。
Researchmap https://researchmap.jp/asumiieasto 研究室 HP https://www.jfcr.or.jp/next-ganken/	

準備中	岩崎 源（いわさき げん） 東京医科大学病院 糖尿病・代謝・内分泌内科 Coming soon

準備中	桐谷 光夫（きりや みつお） 帝京大学医療技術学部 臨床検査学科 主に甲状腺培養細胞を用いた基礎研究を行っており、甲状腺ホルモン前駆体であるサイログロブリンが持つ、強力な濾胞機能制御機構の解明研究を行っています。また、濾胞上皮細胞内腔側に発現する新規ヨード輸送体 SLC26A7 の機能制御機構の解明研究などにも取り組んでおります。
------------	--

	蛭間 重典（ひるま しげのり） 東邦大学 内科学講座 糖尿病代謝内分泌学分野 異所性脂肪蓄積と組織特異的インスリン感受性について研究を行い、2022 年に博士(医学)を取得しました。伊藤病院で甲状腺診療の奥深さを知り、現在は甲状腺の臨床・研究に加え医学教育にも重点的に取り組んでおります。
Researchmap https://researchmap.jp/anti-aging	

	山崎 春彦（やまざき はるひこ） 横浜市立大学附属市民総合医療センター 乳腺・甲状腺外科 甲状腺腫瘍の診断や手術のみならず、進行甲状腺癌に対する薬物治療も行っています。臨床研究では日本の甲状腺腫瘍診療ガイドラインや新たな甲状腺癌取扱い規約の妥当性、甲状腺濾胞癌に関する研究結果を報告してきました。今後も臨床に役立つような研究をすすめていきたいと思っています。
---	---

	新井 信晃（あらい のぶあき） 杏林大学医学部 呼吸器・甲状腺外科 甲状腺外科医として甲状腺腫瘍やびまん性甲状腺腫の診療に従事しています。博士課程では乳がんの代謝変化が薬物療法の奏効性をなぜ上げるのかをテーマに研究しました。現在は、甲状腺癌の未分化転化を metabolic reprogramming の視点から解明すべく研究を進めたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。
Researchmap https://researchmap.jp/n0arai	

 準備中	上田 真由（うえだ まゆ） 長崎大学 原爆後障害医療研究所 腫瘍・診断病理学/長崎大学病院 内分泌・代謝内科 2024 年に学位を取得後、内分泌内科医として臨床診療を継続しながら、病理学教室で甲状腺腫瘍の分子病理学的特徴解析を行っています。甲状腺癌の診断や治療に貢献できるような研究を目指して取り組みたいと思います。
Researchmap https://researchmap.jp/mayu_ueda	

 準備中	酒匂 あやか（さこう あやか） 長崎みなとメディカルセンター 糖尿病・内分泌内科 長崎大学原研医療にて甲状腺乳頭癌の悪性度と TERT プロモーター変異、TERT mRNA スプライシングバリエーションの関連について基礎研究を行い、2024 年に博士(医学)を取得しました。今後も甲状腺癌の患者さんの病態解明や治療に繋がる基礎研究を続けていきたいと考えています。

	長岡 竜太（ながおか りゅうた） 日本医科大学 内分泌外科 甲状腺、副甲状腺の外科治療を日々行っており、頸部に傷跡を残さない内視鏡手術を専門にしています。内視鏡手術普及のための技術指導活動を行う一方で、患者 QOL 研究や多施設共同研究に取り組んでいます。
教室 HP http://nms-endocrinesurgery.com/index.html	

準備中	濱田 勝彦（はまだ かつひこ） 田尻クリニック 日々たくさんの甲状腺疾患の患者さんを診るなかで、診療の疑問点・患者さんが困っていることを見つけ、少しでもそれらの解決に繋がる臨床研究を行っていきたいと考えています。

準備中	谷古宇 史芳（やこう ふみよし） 東京医科大学 八王子医療センター 糖尿病・内分泌・代謝内科 Coming soon

	杉澤 千穂（すぎさわ ちほ） 昭和大学藤が丘病院 内科(糖尿病・代謝・内分泌) 先天性甲状腺機能低下症の分子病態の解明をテーマに研究を開始しました。現在は甲状腺機能低下症に関連する遺伝子変異に関して、臨床的な見地から研究を継続しています。

準備中	星 雅恵（ほし まさえ） 金地病院 外科 大学在籍中は肺転移を認める甲状腺乳頭癌転移マーカーに関するプロテオーム解析の研究を行い、2013 年度に学位を取得しました。現在は甲状腺専門病院にて甲状腺疾患全般の診療に取り組んでいます。
準備中	渡邊 琢也（わたなべ たくや） JA 長野厚生連 佐久総合病院 佐久医療センター 糖尿病内分泌内科 Coming soon

 準備中	竹島 健（たけしま けん） 和歌山県立医科大学 内科学第一講座(糖尿病・内分泌・代謝内科) 甲状腺疾患をはじめ、副腎、下垂体を含む内分泌代謝疾患の専門的治療を行いつつ、学生、研修医などの教育・指導にも取り組んでいます。また、IgG4 関連疾患の厚生労働省班会議で分担研究者として内分泌領域(主に下垂体、甲状腺)を担当しており、IgG4 関連甲状腺疾患の診断基準を提言致しました。
教室 HP https://wmu-ichinai.com/	

	中路 啓太（なかじ けいた） 長崎大学 原爆後障害医療研究所 放射線災害医療学研究分野 甲状腺乳頭癌の放射性治療抵抗性に関連する遺伝子変異や臨床病理学的指標についての研究を行ってきました。今後も甲状腺癌を中心に臨床研究・基礎研究を行っていきたいと考えております。
教室 HP https://www.genken.nagasaki-u.ac.jp/drms/	

	江藤 真実（えとう まみ） 隈病院 内科/長崎大学 原研医療 放射性ヨウ素内用療法不応性甲状腺癌についての研究を行っています。臨床診療を続けながら、基礎研究にも取り組んでいきたいと考えています。

準備中	川本 晃史（かわもと てるふみ） 順天堂大学医学部放射線治療学講座/金地病院 日常臨床では癌全般を診療しておりますが、甲状腺に関しては臨床研究は甲状腺癌に対する内用療法、外部放射線治療、甲状腺眼症に対する外部放射線治療に取り組んでおります。
Researchmap https://researchmap.jp/t-kawamoto	

準備中	志村 和浩（しむら かずひろ） 慶應義塾大学医学部 小児科学教室 非自己免疫性甲状腺機能亢進症における TSHR 遺伝子バリエーションについて研究しています。症例数の多くない小児の甲状腺分野において、臨床に近い観点から新しい知見を得られるよう、今後も研究を行っていきたいと考えています。

日本甲状腺学会 次世代研究者の会 内規

1. 名称

日本語名称：日本甲状腺学会 次世代研究者の会

英語名称：Next-generation committee of Thyroidologist in the Japan Thyroid Association

英語略称：NexT-JTA

2. 目的

日本の甲状腺研究を発展させるため、有機的な交流及び活動の場を提供することにより、若手研究者を育成・支援することを目的とする。

3. 体制

- 1) 活動を円滑に進めるため、庶務理事の下に世話人を若干名置き、企画運営にあたる
- 2) 世話人は、原則として臨床分野（内科/外科/小児科含む）より 2-3 名、基礎分野より 1-2 名を選出する
- 3) 世話人の任期は 1 期 2 年とし、再任を妨げない。
- 4) 設立時には以下の日本甲状腺学会員を世話人とし、以後は本会世話人同士の合議により候補者を挙げ、理事会による承認を得る。

岩間信太郎（代表）（2002 卒） 名古屋大学医学部附属病院 糖尿病・内分泌内科

中尾佳奈子（2006 卒） 国立成育医療研究センター研究所 分子内分泌研究部

天野出月（2007 卒） 群馬大学大学院医学系研究科 応用生理学分野

山内一郎（2009 卒） 京都大学大学院医学研究科 糖尿病・内分泌・栄養内科学

4. 入会基準

- 1) 七條賞、ヤマサ基礎医学研究助成、コスミック研究創成賞、ロシュ若手奨励賞のいずれかを受賞し、本会の趣旨に賛同する 45 歳以下の日本甲状腺学会員。
- 2) 上記以外に、博士号を取得した 45 歳以下の日本甲状腺学会員から入会希望があれば、随時受け付ける。

日本甲状腺学会学術集会終了後から 3 ヶ月以内に、本会に未入会の受賞者に対し、入会を案内する。

5. 退会基準

- 1) 48 歳となる年度の 3 月末日をもって退会とする。
- 2) 教授職（またはそれに相当する職）に就任した場合には、その年度の 3 月末日をもって退会とする。

- 3) 専門医療機関あるいは研究機関を離れて研究継続が事実上困難となった場合には、その年度の3月末日をもって退会とする。
- 4) 上記以外に退会希望があれば随時受け付ける。

6. 活動内容

- 1) 本会は、少なくとも年1回の全体会合を開催する。原則として、日本甲状腺学会学術集会にあわせて開催する。
- 2) 日本甲状腺学会学術集会における若手シンポジウムを当該の学術集会長と相談して企画・開催する。
- 3) セミナー形式の会議を開催し、会員同士による情報交換を推進する。

2023年2月14日 第1版